

(2) 国営ひたち海浜公園

①公園の概要に関する事前説明

ア) 公園周辺地域の歴史及び整備経緯と概要

- ・公園周辺は砂浜、砂丘が9キロも続く立地となっている。
- ・古墳時代末期7世紀初めにつくられた前方後円墳がある。
- ・室町時代には海沿いの3村にて塩作り(揚げ浜式製塩)が盛んで、製塩跡の遺跡が出土されている。
- ・江戸時代の大風(千々乱風)で集落が衰退、第二次大戦中には旧陸軍が民有地や県有地を買収し昭和14年に水戸飛行学校が開設された。
- ・昭和20年の敗戦後、連合国軍の土地接收により昭和24年3月に空軍の対地射爆撃場に指定された。
- ・昭和27年のサンフランシスコ講和条約の発効により在日米軍施設となり昭和48年の返還までの27年間射爆撃場として使用された。
- ・昭和46年より射爆撃場跡地利用研究協議会を設置し、昭和52年首都圏整備計画において場跡に新流通港湾や公園緑地が位置づけられ、昭和54年国営常陸海浜公園の事業が着手された。
- ・昭和56年に国有財産中央審議会において350haを国営公園用地とすることが決定、昭和59年に工事着手された。
- ・平成3年に70haが開園、現在は199.5haが開園されている。

イ) ひたちなか地区の概要

- ・国営ひたち海浜公園の立地するひたちなか地区は、水戸対地射爆撃場跡地の1,182haに都市、港湾、レクリエーション、産業機能を有する開発地である。
- ・国営公園用地の350haの他に、流通港湾関連施設用地(194ha)、自動車安全運転センター用地(100ha)、公共公益施設用地(87ha)等の利用が決定されている。
- ・快適な環境を持つ職場と質の高い遊びの場が融合したまち(ビジネス&プレジャー)を実現できる国際港湾公園都市として一体的に整備が行われている。
- ・整備については、100万kwの石炭火力発電所の整備の他、日立建機やコマツの企業が立地され、大規模郊外型店舗(コストコ、ジョイフル本田、ケーズ電機、TOHOシネマズひたちなか、等)立地が加速されている。
- ・公園に隣接される空地についてはピーク時の駐車場不足の臨時駐車場として利用している状況である。

ウ) 国営ひたち海浜公園の概要

- ・現在開園の199.5haに、西口エリア、プレジャーガーデンエリア、みはらしエリア、草原エリア、樹林エリア、南口エリア、砂丘エリアが整備されている。
- ・ゲートは南、中央、海浜、西の4箇所である。

- ・公園中央部を東西に常陸那珂有料道路（北関東自動車道に接続）が横断しており、公園区域は南北に分断されている。しかし3つの橋（はまかぜ橋、まつかぜ橋、そよかぜ橋）で接続されており、公園利用者には道路はほとんど意識されない。
- ・北に位置する未開園の区域は樹林地となっており、環境保全エリアと位置づけ新たな施設整備は最小限とする方針としている。（未開園区域は全て国有地であり、平成35年に概成開園予定である）

「西口エリア」

- ・勝田駅からのメインのエントランスとなっているエリアである。
- ・西口エリアを中心に、園内には関東では珍しいアカマツ林が広がっている。アカマツはマツ枯れ被害も多くあり、林野庁からのマツクイムシ防除補助がなくなった時には1万本のアカマツが枯れる被害があった。現在では予算と状況に応じてエリアごとの薬剤地上散布を行っている。
- ・ひたち海浜公園が南限地となっているオオウメガサソウは、マツと共生する植物であり、マツは重要となっている。
- ・園内には幾つかの屋根付きの休憩所を設けている。エントランス付近の休憩所は、近年多く発生するゲリラ豪雨時の緊急避難等として利用されている。
- ・平成9年4月に皇太子殿下のご成婚記念でオープンした記念の森レストハウスは、平成29年3月に維持管理運営事業者である一般財団法人公園財団の自主事業として3,000万程度をかけて再整備され、コーヒーやラテ、紅茶などを販売している。ひたちなか市に本店を持つコーヒーショップ『サザコーヒー』との連携によりサービスやラテアート作りの指導を受講しており、コーヒー抽出の国内競技会である、ジャパン ブリュワーズカップの2017年の協議では記念の森レストハウスのスタッフが5位入賞した。森を眺める立地環境も良く、利用者に好評である。
- ・園内には飲食店が少ないため、キッチンカーの導入を行っている。公園財団事業として実施をしており、導入については毎年度事業者選定を行っており、質の安定を図っている。売上げの数%を公園財団に収めることとなっている。また、国営事務所には占有料を支払っている。
- ・園内は地下水が豊富であり、井戸が3箇所設けられトイレの水や散水に利用している。（中水の利用は行っていない）
- ・射撃場跡であることから、整備においては不発弾の調査を行っているが、調査のたびに不発弾が発見されている状況である。

「プレジャーガーデンエリア」

- ・プレジャーガーデンはURが整備したもので、今後の改修・設置・管理運営事業について現在、PFI事業として事業者募集を行っている。
（隣接するガーデンレストランやパターゴルフガーデンとともに、運営は株式会社常陸サンライズパークが行っている。）

- ・観覧車「フラワーリング」は、開園当初からある。通常のゴンドラの他にシースルーゴンドラ 2 基、ラブゴンドラ 1 基が設けられている。
- ・BMX コースは無料で利用可能となっており、BMX スクールなども定期的に行われている。また、全日本 BMX コース連盟公認のコースもあり、全日本大会も開催されている。
(世界大会のコースとしてはスタートのテーブルトップの高さの基準をクリアしていないことから認定されていない)

「みはらしエリア」

- ・みはらしエリアの「みはらしの丘」は射撃場として利用されていた当時は平地であったが、周辺地の整備にあたり発生した残土で人造山を形成し現在の地形になっている。
(ひたちなか市で最も標高の高い場所となっている。)
- ・当初は、地域連携での花の名所づくりを意識し、水戸の偕楽園での梅 (2~3 月) に基づくよう、ひたち海浜公園ではスイセン (3~4 月) を目玉とし、さらにチューリップでフラワーリレーを狙っていた。
- ・その後、春のネモフィラ (4~5 月)、秋のコキア (10 月) をスタートし現在に至っている。
- ・開園直後からのスイセンも、認知には 10 年程度かかっている。今後取り組まれるならば、花修景が効果を出すには時間がかかるということはずいぶん承知されたい。また珍しいだけでなく、客に愛される植物を選定することも大切。
- ・ネモフィラとコキアのエリアは 3.5 万㎡あり、共に毎年更新をしており、養生期間中に土壌改良も合わせて行っている。
- ・開花時期以外のその他の花修景という考え方もあるが、花種に適した土壌を整備することが必要になるため行っていない。
- ・地元の造園業者 3 社から協力を得て作業を行っているが、それぞれ得意・不得意もあり、管理側の専門技術者が不可欠である。現場の状況も様々なので、状況にあった改良や手当が必要。
- ・植栽管理の作業員として芋栽培農家の女性が従事することが多く、豊富な経験が作業に役立っていたが、今後そうした作業員の高齢化・退職が課題となっている。対策として機械化への切り替えや、花修景エリアの雑草管理用の草刈り機は替刃を小型化して作業を効率化するなどの工夫を進めている。
- ・コキアは紅葉時の利用者数が多い状況であるが、夏のコキア、紅葉後コキアの見せ方にも工夫しており、夏は緑のコキアに夜間のイルミネーションを開催、紅葉後のコキアは背景のすすきと合わせて、黄金の景観を演出することにより、リピーター増を狙っている。

- ・大規模花修景エリアの園路と花修景の間にある杭とロープの設置については、根の保護の観点からやむなく設置しているところである。杭とロープを設置していても乗り越えて写真を撮るなどのマナーの悪さも見られる。本来は花に触れあえることが望ましいと考えていることから、杭とロープを設けていないエリアを設けており、写真撮影スポットとなっている。
- ・その他、古民家のエリアでは園内で栽培されたそばのそば打ち体験や昔語り体験、コキアを利用した箸づくり体験等も行っている。古民家は豪農の屋敷を移築し整備したもの。
「草原エリア」
- ・大草原の他、バーベキュー広場、林間アスレチック広場、ディスクゴルフコースがあるエリアである。
- ・8月に開催される大規模音楽イベントのロックインジャパンでは、一番大きなステージが設営される。大人数が利用し芝生が圧密されるため、イベント後にエアレーション処理の対応を行っている。
- ・草原に点在する大木には樹齢100年以上と推定されるものもある。既存木を生かした整備がなされている。
「樹林エリア」
- ・ひたちなか自然の森、沢田遊水地、沢田湧水ネイチャーハウスがあり、既存のマツ林が広く分布するエリアである。樹木の自然観察などができる。
「南口エリア」
- ・南口、赤のゲートを入ったすぐのエリアであり、泉の広場、泉のフラワーガーデン、エノキの丘、南口サイクルセンターがある。
「砂丘エリア」
- ・海岸に面した起伏に富んだ砂丘部であり、砂丘観察園路、砂丘ガーデン、サイレントギャラリー、海浜口サイクルセンター、サンドガーデン、ロックガーデン、園芸棟、グラスハウス、グリーン工房などがあり、独特の地形を持つ砂丘の干渉や様々な体験活動ができる。

エ) 公園の利用状況

<利用動向>

- ・平成27年度で214万人を達成し、過去最高の利用者数となった。(平成28年度は天候不良などの影響により若干減っている)
- ・花修景の効果もあり高齢者の利用層が増えている。
- ・全体としては県外からの来園者が多く、特にネモフィラやコキアのシーズンの県外利用者が特に多くなっている。

- ・月別の利用者数については、ネモフィラの他、スイセン、チューリップ、ポピー、バラのシーズンとなる4月、5月、コキアの紅葉シーズンとなる10月が多い。また、8月は、大規模音楽イベントであるロックインジャパンの来場者により利用者数が多い。
- ・平成28年(2016年)の年間利用者207万人の内訳は、春のイベントFlowering(3/19-5/15)の入園者数は815,837人、秋のコキアカーニバル(9/17-10/23)の入園者数は349,976人だった。
- ・1日当たりの入園者数5万人以上：4日、3～4万人：8日、2万人台：5日となっており、2万人未満の人数は年間入園者数の43.23%を占めている。
- ・利用者の来園回数は、初めて、年に1～2回の割合が多い。

<大規模音楽イベント>

- ・ロックインジャパンは「ロッキング・オン・ジャパン」の持ち込みイベントであり、8月の2週の土日、計4日間開催され、27万人の来場者がある大型の屋外フェスである。
- ・今年で18回目の開催となり、園内の7箇所のステージで開催され、アーティストの知名度により利用されるステージが異なっている。
- ・フェスの開催前はジャズコンサートが開催されていた。
- ・フェスでの入場者数は公表している公園利用者数には含めているが、包括的な質における入園者数についてはカウントしていない。(包括的な質の目標入園者数は過去3年間の入園者数の平均から設定している。)
- ・ロックインジャパンは、ひたち海浜公園の知名度向上に貢献している。
- ・フェスの開催については、主催者より公園事務所に占有料(単価×面積×日数)が支払われる。

<地域との連携>

- ・フェスにおける地域連携という観点においては、地元の海産物や農産物などの食材を使ったメニューを提供し地域との連携が行われている。
- ・その他地域との関わりについては、近隣町村の特産品販売や、工作体験、観光PR活動などが行われている。
- ・また、陸上自衛隊東部方面隊との協定により、災害時の後方支援に関する協定が結ばれている。
- ・ボランティア活動については、現在15団体、延べ500人程度の登録がある。各ボランティア団体に会長、副会長が置かれている。
- ・ボランティア活動が盛んな理由としては、この公園自体の魅力(湧水、希少種など他にないものがある)のほか、多様なジャンルの活動団体があるので受け皿が広く参加しやすいことがある。交流の場として参加する人もいる。募集は公園管理者によるほか、各団体による募集もありロコミでも集まる。
- ・霞ヶ浦の遠方からのボランティア参加があったり、ボランティア団体によっては、全く異分野の方の参加などがあったりも見られる。

- ・周辺の企業は、社会貢献活動の一環としてのボランティア活動も見られる。また当地域は、日立製作所及びその関係者が多く、退職後の技術者がボランティアでも多様な能力を発揮している。
- ・公園と地域の協議会的な組織は、茨城県土木部公園街路課の呼びかけで行われる「国営ひたち海浜公園に係る意見交換会」が毎年夏季に開催され、公園及び周辺の事案等をお互いに出し合い、意見交換を行っている。
- ・地域の活性化に資する地域連携については、茨城県観光部署やひたちなか市観光部署と連携した以下の観光事業の実施により、県及び市の観光事業全体に寄与している。
 - ◇首都圏を中心に観光キャンペーンの推進
 - ◇国内観光事業、インバウンド事業等に対して各種取材等の協力
 - ◇観光事業・海外メディア等の視察者に対しての案内等の実施
- ・上記に加え、公園周辺の施設をめぐる周遊利用を推進する以下の事業を展開することにより、観光エリア化を図っている。
 - ◇観光ガイドによるひたちなか巡りウォーキング、周遊スタンプラリー。
 - ◇自転車を活用したちやりくるパーク事業。
- ・繁忙期には、茨城県観光連盟、ひたちなか市観光協会の出店による地元出店ブースを設置し、地元の味等の紹介や、公園主催の飲食イベント「COOK IN JAPAN FES」を実施している。
- ・ひたちなか地区の大規模開発プロジェクトに関連した地域との具体的な連携としては、以前は茨城県地域振興課ひたちなか整備室により、ひたちなか地区を紹介するイベントを年1回実施していたが、現在は、ひたちなか市が事実上引継ぎ、ひたちなかフェスタにて紹介ブースの設置や見学バスツアーを実施している。
- ・来園者の周辺立ち寄り施設については、園内で実施している利用実態調査にて把握している。その他、地元観光協会、県観光連盟に加盟し、状況等の把握に努めるほか、公共交通機関から利用状況のヒアリングを実施している。

<インバウンド>

- ・インバウンドについては、団体利用（20名以上）のみ把握しており、平成26年：1,300人、平成27年：5,382人（H26の4倍）、平成28年：21,220人（H27の4倍）と急激な増加が見られる。
- ・外国人向けのプロモーション活動として、タイ国での紹介、公園や茨城県からの情報提供を通じた海外の旅行誌、ツアー紹介パンフレット、マスコミwebサイト等に掲載を行っている。
- ・海外からの反応については、ベトナムでの日本語練習ノートの表紙に当公園が写真掲載されたり、CNNでの「日本の美しい場所31選」に選定されたり、タイで出版の日本の名所ランキング「Flower Garden10」で1位に選定されたりなどがある。海外からの公園HPへのアクセス数も近年急増している。

②ヒアリングのまとめ

- ・国営ひたち海浜公園は敗戦後、在日米軍施設となり昭和48年の返還までの27年間水戸対地射爆撃場として使用された。その後射爆撃場跡地利用研究協議会を経て昭和54年国営常陸海浜公園の事業が着手された。
- ・射爆撃場跡地1,182haの内、国営公園用地350ha、流通港湾関連施設用地194ha、自動車安全運転センター用地100ha、公共公益施設用地87haの利用となっている。
- ・350haの国営公園用地のうち平成3年に70haが開園、現在は199.5haが開園されている。
- ・公園中央部を東西に常陸那珂有料道路（北関東自動車道に接続）の横断により、公園区域は南北に分断され3つの橋で接続、7エリアが整備されている。
- ・公園の北側の未開園区域（全て国有地）は樹林地で、環境保全エリアに位置づけられ、新たな施設整備は最小限とする方針として平成35年に概成開園が予定されている。
- ・数少ない園内の飲食店を補うために、公園財団によるキッチンカー導入が行われ、質の安定を図るため、毎年度事業者選定を行っている。
- ・園内は地下水が豊富であり、井戸が3箇所設けられトイレの水や散水に利用している。
- ・大規模花修景が行われる「みはらしの丘」はかつて平地であった射爆撃場跡に、周辺地の整備にあたり発生した残土で人造山を形成し現在の地形になっている。
- ・開園直後から実施されているのスイセンも認知には10年程度かかっており、花修景が効果を出すには時間がかかることは承知されたい。また珍しいだけでなく、客に愛される植物を選定することも大切である。
- ・ネモフィラやコキアなど大規模花修景に関する管理は地元の造園業者の協力を得ているが、得意・不得意もあるため、管理側の専門技術者が不可欠である。また豊富な経験を持つ作業員の高齢化・退職が課題となっており、機械化への切り替えなど効率管理方法に転換している
- ・来園者数はネモフィラ等のシーズンとなる4月、5月、コキアの紅葉シーズンとなる10月、大規模音楽イベントが開催される8月の利用が多くなっている。また、アンケート調査では、利用者の来園回数は「初めて」、「年に1~2回」の割合が多くなっているため、夏のコキアとイルミネーション、紅葉後のコキアとススキの組み合わせなどの演出により、リピーター増の工夫を行っている。
- ・大規模音楽イベントでは大人数利用により芝生が圧密されるため、イベント後にエアレーション処理の対応を行っている。
- ・地域連携としてのボランティア活動は、現在15団体、延べ500人程度の登録がある。
- ・公園自体の魅力（湧水、希少種など他にないものがある）のほか、多様なジャンルの活動団体があるので受け皿が広く参加しやすい。
- ・周辺の企業による、社会貢献活動の一環としてのボランティア活動や、周辺の企業のOBや関係者のボランティアは多様な能力を発揮している。

- ・インバウンドについては、団体利用（20名以上）のみ把握しており、平成26年：1,300人、平成27年：5,382人（H26の4倍）、平成28年：21,220人（H27の4倍）と急激な増加が見られる。
- ・外国人向けのプロモーション活動の他、海外メディア等の取り上げにより海外からの公園HPへのアクセス数も近年急増している。



<視察状況：西口エリア園路>



<視察状況：みはらしの丘 コキア開花>

図表 1-7 説明資料 1



位置図 国土交通省

【計画諸元】

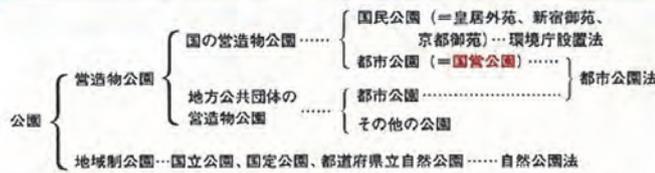
- ・所在地：茨城県ひたちなか市
- ・計画面積：350ha
- ・昭和54年に事業着手
- ※一の都府県の区域を越えるような広域の見地から設置する公園

【公園周辺の交通状況】

- 北関東自動車道から東水戸道路、常陸那珂有料道路経由で「ひたち海浜公園I.C.」に直結
- JR品川駅から勝田駅まで特急で約85分、勝田駅から約6km、タクシー・バスで約15分
- 北関東自動車道の関越道～常磐道間が、平成23年3月に全線が開通。これにより栃木・群馬県方面から本公園へのアクセスが向上
- 圏央道の境古河I.C.～つくば中央I.C.が平成29年2月に開通したことにより東名高速から東関東道の6つの放射道路が接続

●公園の位置図

全国の国営公園の状況



都市公園の役割

- ・良好な都市環境を提供
- ・都市の安全性の向上
- ・市民活動の場、遺構の場を形成
- ・豊かな地域づくり、地域の活性化

- 国営公園では更に、
- ・広域、多様化するレクリエーション需要に応える
 - ・環境の保全と創出
 - ・歴史、文化の保存と継承

都市公園法に基づく国営公園

- イ号:一の都府県の区域を超えるような広域の見地から設置する公園(12ヶ所)
誘致距離200km以内、面積300ha以上
地元負担金有り
- ロ号:国家的な記念事業又は我が国固有の優れた文化的資産の保存及び活用を図るため閣議決定を経て設置する公園(5ヶ所)
地元負担金なし

その他の都市公園

- 街区公園、近隣公園、地区公園
総合公園、運動公園
動植物公園、総合公園など



公園周辺地域の歴史 ---9キロも続く砂浜・砂丘---

- ・ 虎塚古墳は古墳時代終末期7世紀初めにつくられた前方後円墳。彩色壁画が特徴
- ・ 室町時代(海沿いに3つの村)塩づくりが盛ん、製塩跡の遺跡が出土
- ・ 江戸時代初めの大風(千々乱風)で家や塩作り小屋が埋まり、馬渡や阿字ヶ浦など周辺に移住
- ・ ヤンサマチは、静神社(那珂市)の神輿の浜降り神事と、村松大神宮(東海村)及び酒列磯前神社に伝わる競馬の神事が統合された壮大な春の大祭で、昭和4年に途絶えた(奉納競馬は村松から阿字ヶ浦までの約9キロの砂浜)

虎塚古墳 石室内壁画



海岸近くで発見された製塩跡の遺跡



干し芋づくり
明治時代後期に農閑期副業として導入



昭和4年が最後となったヤンサマチ競馬



・米軍の水戸射爆撃場跡地の一部に、地元の強い要望で計画
 ・平成3年10月5日に開園
 ・広さは全体面積350ha(東京ドーム75個)、開園面積200ha(東京ドーム43個)

誤投下爆弾の処理をする米兵



昭和13年 旧陸軍が民有地、県有地を買収し、翌年水戸陸軍飛行学校を開設
 戦争末期には特攻基地化→70余名が特攻戦死

昭和20年 敗戦
 昭和21年 連合国軍が接收
 昭和24年3月 空軍の対地射爆撃場に指定
 昭和27年 講和条約の発効により在日米軍施設となる
 返還までの27年間 射爆撃場として使用

- ◇あいつぐ米軍演習に伴う事故
 - ・周辺民家への模擬爆弾の誤投下
 - ・機関砲不発弾の落下 など
- ◇茨城県民あげての返還運動
- ◇昭和46年7月、射爆撃行為の停止

昭和48年 米軍より射爆撃場返還

射爆撃場返還要求県民大会(547)



射爆撃場返還式(昭和48年)



昭和46年 水戸射爆撃場跡地利用研究協議会を設置
 昭和52年 首都圏整備計画において場跡に新流通港湾や公園緑地が位置づけられる
 昭和54年 国営常陸海浜公園の事業着手
 昭和56年 国有財産中央審議会において350haを国営公園用地とすることが決定
 昭和58年 国営常陸海浜公園基本計画が決定
 都市計画決定
 昭和59年 工事に着手
 平成3年 国営常陸海浜公園開園(70ha)
 平成27年 開園面積(199.5ha)

→

5

ひたちなか地区の概要

○国営ひたち海浜公園の立地するひたちなか地区は、水戸対地射爆撃場跡地1,182haに都市、港湾、レクリエーション、産業機能を有する広大な開発地である。

- 昭和48年在日米軍より1,182haが返還
- 跡地は、国営公園用地(350ha)、流通港湾関連施設用地(194ha)、自動車安全運転センター用地(100ha)、公共公益施設等用地(87ha)等としての利用が決定
- ひたちなか市、東海村にまたがる地域
- 快適な環境を持つ職場と質の高い遊びの場が融合したまち(ビジネス&プレーヤー)を実現できる国際港湾公園都市として一体的に整備



6

ひたちなか地区の整備概要

・コマツの真岡工場機能が移転されるなど、大型建機製作企業が立地
 ・新たにコストコが出店するなど 大規模郊外型店舗の立地が加速



公園の全体計画

・未開園の区域は環境保全エリアとして新たな施設整備は最小限とする方針

基本理念

- ① 首都圏における増大かつ多様化するレクリエーション需要に応えるものとする。
- ② 広大な自然環境の中に体験と活動の場を提供し、国民の資質の向上に資するものとする。
- ③ 地方の文化を生かし、その鑑賞に寄与できるものとする。

【国営ひたち海浜公園の基本テーマ】

海と空と緑が友だち

爽やか健康体験

シンボルマーク

太陽をモチーフに自然と人々とのふれあいを種だまりの暖かさとして表現している。青は「空と海」、赤は「太陽」、黄は「大地に咲く花」を象徴している。

